

新しい生活様式

ようやく第1波を押さえ込むことができた新型コロナ感染症ですが、今後またぶり返したり、第2波がくることも想定されます。感染予防のために、これからも生活上の注意をお願いします。

政府からは「新しい生活様式」が提示されています。その中で重要なのは感染予防の基本を守ること。十分な距離、マスク、手洗いに気をつけ、お互いに移し合わないようになることが大切です。

新型コロナについていろいろなことが分かつてきました。私が驚いたのは、感染力のある期間です。例えばインフルエンザであれば発熱から数日前から伝染力があり、さらする数日前から伝染力があり、さらにもつとも強いのが前日だというのです。つまり、症状がなく、本人も周りも気づかない時に、他の方に伝染させているということです。

そのため、感染予防は「症状がない」と考えて対処する必要があります。マスク着用もそうです。症状がないても、自分と他人を守るために、外出時などはしっかりとしている必要があります。

帰宅時は、手についている可能性のあるウイルスを早く洗い流した方が良いので、すぐに手洗いを。夏場はお風呂場に直行してシャワーや入浴するのもいいですね。

なお、マスクは2歳未満の乳幼児は呼吸困難になる可能性があり、すべきではないとのことです。

さらにマスク着用が熱中症を起す可能性もあり、周りに人がいない時にははずすなど、状況に応じて対応してください。

30年の歩み(1)

当院が生きてから30年がたちます。実にいろいろなことがありました。この間の軌跡(奇跡?)を簡単に振り返ってみます。

●1990年6月 開院

院長のほかは看護師1名、医療事務員1名という極めて小規模、「超」が付くほどの零細企業としてスタート。院長はそれまで県立病院の勤務医でしたが、「公務員」が肌にあわず、地元に戻り開業医として再出発しました。

●同年7月 「こども通信」創刊

地域に向けた情報発信をしていきたいとの思いで、この通信の発行を始めました。当初は不定期発行でしたが、翌年からは毎月発行。これまで欠号なく、354号に至っています。

デジタルで情報のやりとりをする現在、今もって紙媒体での新聞作りはもう過去のものかな? でもまだこのスタイルにこだわって(これしかできないし)、月に1回の発行を続けています。

月末になり、原稿締め切りが近づくと、今でも胃が痛くなることもあります。そんな苦難を乗り越えながら(!?)、これからも発行を続けていこうと考えています。

通信のひな形があり、そこに文字を書きいれいくのが私のスタイル。見た目には(内容も?)同じに見えるかもしれません。マンネリだとのそりもあるかもしれません、これが長く続け

☆わたぼうし病児保育室は、勤務体制の見直しに伴い、土曜は休みとさせていただきます。月～金曜の保育はこれまでのとおりです。

るコツなので、ご理解を。

ちなみに、原稿を決められた文字数に納めるのは、私の「特技」なんです。毎号、空白を作らずに、ピッタリと文章の終わりを決めると、達成感があります(密かな喜び)。

数年後から、通信に書き込んだことを中心に、病気などについての情報をまとめた「ヘルス・レター」を作り始めました。通信が「流れる情報」だとすると、ヘルス・レターは「立ち止まった情報」です。これも紙媒体として、今でも診療の中で大いに活用しています。

●1995年 5周年記念事業

開院から5年が経ち、多くの子どもたちが来院してくれる医院に成長。そのお礼のために童謡コンサートを2回開催。NHKうたのお姉さんの童謡歌手・岡崎裕美さんをメインに、地域の子どもたちと楽しく過ごしました。

この時にイメージソング『またあした元気になれるから』が完成。作詞は院長(生涯にただ1曲のみ!)、作曲はプロの作曲家のたかしまあきひこ氏にお願いしました。たかしま氏はドリフターズの「8時だよ!全員集合」で、山本直純氏の後任として音楽企画を担当。加藤茶と志村けんのヒゲダンスの編曲者。番組の中で、樂団の指揮をとっていた方です。この曲は今では院長のみしか歌えないという化石のような存在(笑)。でも、まだHPでは聴くことができますよ(唄は院長ではなく、ひろみお姉さん)。